



MON Nara 通信



Numéro 22

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

AOÛT 2025 8月

これからの催しご案内

第157回フランス・アラカルト「フランス詩に泳ぐ魚たち」

前回は珍しく農業の話題でしたが、今回も、これまであまり取り上げられてこなかったフランス詩についてのお話です。詩の話というと、たいがい、詩人の話であったり、文学史的な影響関係の話であったり、ときには詩の技巧的な話であったりしますが、今回は、詩の中に登場する魚という題材に的を絞った斬新な切り口で、お話いただきます。魚の詩はあまり思い浮かびませんし、ましてや詩の中で、魚はどのように泳ぐのでしょうか。

❖日時: 9月7日(日) 14:30~16:30 (Mon Nara 6月号の告知では、曜日が間違っておりました。ご注意ください)

❖会場: 生駒市コミュニティセンター 4F 401号室

❖会費: 会員 500円、一般 1,000円

❖問合せと申込先: sugitani@ken.jp tel: 090-6322-0672 (杉谷)

❖講師: 森田俊吾さん(奈良女子大学文学部言語文化学科専任講師)

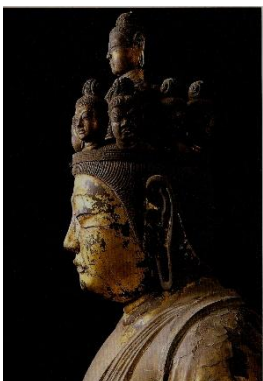
❖森田さんからのメッセージ: フランスの詩で「魚」が登場する作品は思い浮かぶでしょうか?—詩の中の動物といえば、「鳥」をイメージされる方のほうが多いかもしれません。たしかに詩人たちは、古来より鳥の鳴き声を自らの歌声と重ね合わせ、ときに飛翔の象徴として繰り返し描いてきました。ところが、特に20世紀以降の詩になると、「魚」が意外な頻度で登場してきます。ときに魚が歌い、空を飛ぶことも—。そんな突飛な「魚」たちが、なぜ現代詩の中で多く描かれるのでしょうか。本講演では、こうした魚の登場するフランスのいくつかの詩を、皆さんと一緒に声に出して味わってみたいと思います。前半では鳥との対比から、後半では旧約聖書『ヨナ書』との関連を手がかりに、その象徴的な意味を読み解いていきます。普段詩を読む人も、そうでない人も、ぜひ言葉の海を自由に泳いでみませんか。



2025年度ガイドクラブ「聖林寺と安倍文殊院を巡る」

今年度のガイドクラブは11月2日(日)午後に、奈良県桜井市の聖林寺と安倍文殊院にお参ります。集合場所、予定時間、行程スケジュール、参加費など、詳細は、Mon Nara 10月号でお知らせしますので、予定に入れておいてください。「聖林茶館」という期間限定のカフェでの休憩、終了後には有志による懇親会も予定しています。お楽しみに。

❖案内役の本田倫子(みちこ)さんプロフィール: 聖林寺ご住職の妹さん。奈良日仏協会会員。2022年に奈良まほろばソムリエ試験に合格し、奈良まほろばソムリエの会に入会。ガイドグループに所属し、聖林寺・長谷寺・室生寺・大神神社・山辺の道などのガイドを務めている。奈良テレビで夕方放送の「ゆうドキッ!」にも、定期的に出演中。



❖本田倫子さんからのメッセージ: 聖林寺では、3年前に新しく改築された御堂で国宝十一面観音立像を拝観します。昭和26年に国宝制度が出来た際に指定された一体で、天平時代に造られた観音様を360°から拝観できます。また、11月のみ開催のマンダラ展では、當麻寺の4分の1サイズの當麻曼荼羅や、春日宮曼荼羅など神仏習合の曼荼羅もお目見えします。安倍文殊院では、鎌倉時代快慶作の日本最大7mの文殊菩薩像が、四人の脇士を伴う「渡海文殊群像」のお姿で拝観できます。その他、平安時代の陰陽師 安倍晴明の出世の地や国の特別史跡になっている文殊院西古墳へ参ります。秋の清々しい一日を、神仏と共に過ごしませんか。



秋の教養講座 2025 のお知らせ

今年の秋の教養講座の日程と、お話しいただくゲストが決まりました。奈良市役所で長らく国際交流の仕事に携わってこられた西崎美也子会員から、奈良市とヴェルサイユ市の交流活動を中心にお話しいただきます。終了後、懇親会も予定しておりますので、ぜひご参加ください。詳細内容は、Mon Nara10 月号でお知らせします。

❖期日:11 月 23 日(日・祝)、時間、場所は未定です。

活動記録

★ 6 月 29 日(日):第 66 回シネクラブ例会「アラン・ドロン追悼②『冒険者たち』」 プレゼンター:橋本克己
詳細報告は、Mon Nara10 月号をご覧ください。

≪2025 年度第 3 回理事会報告≫…事務局

★日時:2025 年 7 月 17 日(木)15:00~16:00。★場所:野菜ダイニング「菜宴」。
★出席者:三野、浅井、中辻、高松、喜多、藺田、杉谷。★議題 1. 2025 年度会費納入額・会員数。2. 前回理事会(5/15)後の活動:第 156 回フランス・アラカルト(5/25)、第 66 回シネクラブ例会(6/29)。3. 今後の行事:第 157 回フランス・アラカルト(9/7)、ガイドクラブ(11/2)、秋の教養講座(11/23)。4. 来年度役員人選。5. Mon Nara、Mon Nara 通信。6. その他:ラヴェル・コンサート並びに大安寺国際縁日への後援名義。7. 次回理事会:9 月 18 日(木)15:00~16:30 野菜ダイニング「菜宴」。



後記 ★Mon Nara 通信 8 月号をお届けします。★次回のフランス・アラカルトは、フランス現代詩についての話題で、ふだんなじみのないテーマだと思います。詩というものがそもそもとっつきにくい上に、フランスの詩、さらには現代詩となると、ハードルがどんどん上がってくるように思います。幸い森田さんのメッセージを読めば、楽しくやさしそうな印象があり、いちど話をうかがってみたいという気になりました。年寄りの思い出話になってしましますが、私の高校生時代、1960 年代後半では、日本の近代詩、現代詩や海外の翻訳詩が今よりも読まれていた気がします。アニメもゲームもスマホもありませんでしたから。フランスの詩人では、ボードレール、ランボーが仲間うちでよく話題になっていました。が、果たしてどれだけ理解できていたものか。そもそも外国語の詩のうわべの意味だけを日本語に移し替えたただけのもので、まったく別物になっていることは間違いありません。反対に、日本の俳句や短歌の仏語訳英語訳を読んだ時に抱く違和感を考えてみれば分かります。それなら原詩でと、大学では、ボードレール講読の授業にも出ましたが、当時使っていたテキストをいま見ると、初歩的と思える単語なのに、一行に一語ぐらいの割合で訳語を書きつけていて、これではとても原詩を味わえていたとは思えません。それから 40 年ほどのブランクを経て、定年後、再びフランス語の本を読み始めて、たまには詩の本を手取ることもあります。語彙も少しは増え、文章の読解もスピードが上がってきて、以前よりはフランス語の美しさが分かったようなつもりですが、本当にどこまで理解できていることか。詩文そのものの解釈はもちろん、フランス語の微妙な発音や、言葉の深い意味やイメージなど、おそらくフランス人が味わっている詩の美しさの半分にも達していないことでしょう。それでも、負け惜しみではありませんが、直接フランスの詩に触れているという喜びがあり、また言葉の意味を越えて音楽のようなものが実感できる瞬間があります。いつも一人で黙々と読むだけでしたが、今回、森田さんと一緒に読むことで、フランス詩への興味がさらに増すのではないかと楽しみにしています。(杉)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara10 月号は 9 月 30 日が原稿締切日です。
- ◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方**は、1)内容がフランスに関わるもの、2)本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2025 年 8 月 numéro 22

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司